

「幻のオーガナイザー物質を求めて —発生研究の暗の歴史」

岡田 節 人

日 時: 平成15年12月19日(金)
午後4時30分～午後5時30分
場 所: C棟6階セミナー室

1924年にH. SpemannとH. Mangoldはイモリの胚を用いた実験によって、その後の発生の過程を instruct し、形態形成の中心となる部域が存在していることを示した。その論文の発表後、この働きをになう物質があると想定され、それを分離、同定しようという試みは、当時の発生研究者の間でゴールドラッシュ(新しい金鉱探し)のような観を呈して、研究された。しかし、この試みから、結局何らかの具体的な結果は得られず、景気はバブルの如くに1950年代には去っていった。このトークでは当時どのような研究がなされたかを紹介すると共に、この失敗と失望の背景を探りたいと思う。

